

【情報理工学部】令和8年度 学部等教学マネジメント計画書

3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現に向けて、学部等教学マネジメントに関する以下の観点について各学部で計画・実行・検証し、次年度以降の改善に繋げることとする。

1. 学部における教学マネジメントの組織体制

情報理工学部 教学マネジメント委員会

委員長：情報理工学部長 副委員長：副学部長 委員：教務委員、学部教務担当（2名）

2. 体系的かつ組織的な教育課程の編成・実施を支える各ツールの課題およびその改善に向けた今年度の取り組み

課題

① カリキュラムマップ

カリキュラムの改訂・更新計画に伴うカリキュラムマップの再確認と、必要に応じた修正を検討する。

② シラバス

新たな学年暦と授業の実施方法のもとでのシラバスの整合性・適切性や問題点・課題について検討する。

③ その他（カリキュラムツリー、ナンバリング等）

カリキュラムの見直しや新規開講科目の計画に合わせて、科目ナンバリングの見直しや改訂を検討する。科目ナンバリングとカリキュラムツリーとの関係性についても検討課題として挙げられる。

今年度の取り組み

FD ワークショップ等で上記のような課題を取り上げ、議論を教員間で共有する。個別の議論を通して、学部の教学マネジメント方針が科目レベルで浸透するよう努める。実験科目や特別研究科目など、複数の教員で分担して担当する科目についても、その科目全体としての統一的な方針を揃えることに留意する。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化に向けた今年度の取り組み

課題

学習成果実感調査や各種修学アンケートの回答率向上

学生の対外活動（研究発表、コンテスト参加、イベント参加・主催など）の成果把握と可視化

今年度の取り組み

プログラミング科目のカリキュラム改訂の成果把握や修学動向可視化に引き続き取り組む。学生の対外発表を支援するプログラムを継続し、成果公開を進める。

4. 授業科目の到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況から明らかになっている課題およびその改善に向けた今年度の取り組み

課題

1 年次春学期での授業出席や単位修得、GPA などが振るわない学生が、その後留年や休学、中途退学に陥るパターンが多発することが明らかになっている。また、GPS-A の結果などから、リーダーシップや協働力、自身の魅力や能力の高さに気づいていないことによる自己アピール不足などが、本学部生に共通する気質として指摘されている。また、高校での「情報」教科の新課程を履修して入学した学生の知識・技能・気質の変化とばらつきの幅について、知見を集積してゆく必要がある。

今年度の取り組み

入学当初の段階からの低出席や必須提出物への未対応の傾向の学生を早期に拾い出し、修学面談等のサポートを実施する取り組みを引き続き継続する。学生の主体的な对外発表や、大学院も含めた学年間の縦の繋がり・協業を支援するプログラムを継続する。入試において情報科目試験を受験して入学した学生の入学後動向の追跡や、高校までの修学内容の違いによる「情報」の知識・技能・態度の違いやばらつきの有無の把握を試みる。AI を学生の深い理解や主体的学びにつなげるための活用方法についての議論を進める。

アセスメントプランの取り組み

アセスメント科目名	検証方法（在学時）
・ コンピュータ概論 ・ プログラミング演習 B ・ 情報理工学実験 A・B ・ プロジェクト演習 ・ 情報理工学特別研究Ⅱ A・Ⅱ B	☐ 外部アセスメントテスト（GPS アカデミック） ☐ 学習成果実感調査 ☐ GPA ☐ 在学生調査（在学生生活に関するアンケート） ☐ 単位取得状況 ☐ 成績評価
	検証方法（卒業時） ☐ 卒業研究・卒業論文 ☐ GPA ☐ 卒業時調査（4 年次生調査） ☐ 学位取得状況 ☐ 進学率 ☐ 就職率

取り組み内容（「8つの資質・能力」の達成方法など）

専門教育科目については、複数コースの修了を目指すモチベーションの向上を促す。また、学生の对外発表活動を促進し、その成果を学生に周知して意識づけを促す。

その他

※この内容は、本学における教学マネジメントの一環として、本学 HP へ掲載します。